

巻頭言

わらじ 草鞋銭の奉仕

財団法人 いも類振興会

理事長 生天目 健 蔵

明 治・大正の昔、茨城二区から立候補して、常に当選していた代議士に、大津淳一郎先生という清潔な政治家がいた。当時は制限選挙時代で、たしか、国税15円以上納めていないと、選挙権がなかった筈である。

投票日が近づくと、うちの親父らは、「そろそろ、大津先生が回ってくる頃だから、草鞋銭を用意しなくてはならない」と称して20円なり、30円なり用意して、関係者がくればそれを持たして、帰すのが「しきたり」であった。一種の理想選挙である。

金丸さん、竹下さんは田中政権時代からボスである。それが時代が移って、自分らの政権時代となると、同じスキャンダルを反覆している。しかし、よく検討してみると、今のような政権授受を繰り返しては、どのような派閥が政権を握っても、金がなければ統率することが出来ない。

政権の中枢に座るのには、同じ派閥の中でもあっても、それらの政治資金、選挙費用を面倒見なくては、兎分が追隨して行かない。

一方、5億、3億と云った政治資金を出すものは、全くの「見返り」なしの出資は、これまた考えられない。それかと云って、大正製薬の上原さん、松下の松下さん、トヨタの豊田さんと云った、大事業を下にしている大企業家だけが立候補してもそれは藤山愛一郎さんの絹のハンケチで、証明済みである。従って、職能代表を政治面に取り入れても、国政

の解決にはならない。

曾って、マツチ・ポンプの異名をもらった代議士先生の生地在市町村を、交通事故の対策で3泊4日の講演に赴いたことがあった。報道機関の噂の最中であつたが、彼は地元では大変な人気なのである。夜、自治体、商工会等の有志と懇談の際、「大変な人気ですね」と発言したら、地元の参加者から、「先生、人気がなかったら、それこそおかしいでしょう」と云うのである。

その言によると、マツチをつけたと言つては金を取ってき、ポンプを出したと言つては、金を掴んでくる。そして、いろいろな名目で金をバラまけば、誰でも人気が出る、というのである。なるほど、これも一面の真理があるわけで、政治の汚い金も、反面バラまかれた地元にとっては、有意義でないまでも、害になっているものではない。そんな感がしたものである。

誰 もが、大津先生のように、選挙民の草鞋銭で当選するようになれば、理想的な選挙が実現するわけであるが、そこまで徹底した政治資金でないまでも、現実にバラ撒かれる政治資金は、必ずしも、悪にドブプリひたった資金とばかりは云えないものが多いことであろう。この辺が政治の金と云えども一概には非難できないものがある。

それだけに、今後は選挙民と投票組織に一考を要する必要があると思う。